

総務部防災安全課

1 非常備消防関係

(1) 消防団

ア 団員異動状況（令和3年3月31日現在）

分団数	団員数			定員
	入団	退団	現員	
28分団	14人	30人	523人	544人

イ 行事

- (ア) 3月7日 米子市消防団・米子消防署合同消防演習（鳥取県消防学校）
- (イ) 3月13日 米子市消防団表彰式（米子市立図書館）
- (ウ) 随時 女性消防団員の防火・防災予防広報（自治会、イベント等）

ウ 消防団員教育訓練

- (ア) 米子市主催のもの
 - a 10月4日 消防団水防研修（米子市役所）
 - b 12月5日 南部・箕蚊屋・淀江町ブロック無線通信訓練（各分団車庫付近）
- (イ) 鳥取県消防学校入校によるもの
 - a 9月12日 消防団員専科教育・機関科（第55期）
 - b 11月28日・29日、12月6日 応急手当普及員講習
 - c 2月13日・14日 応急手当指導員講習

エ 報酬及び費用弁償

（単位：円）

階級 区分	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
報酬年額	82,500	69,000	50,500	45,500	37,000	37,000	36,500
機関員加算	ポンプ自動車機関員報酬年額 13,300				可搬ポンプ機関員報酬年額 7,800		
費用弁償	出場、訓練、警戒等 1回につき				2,800		

オ 表彰等（主なもの）

表彰等の種類	階級	氏名
消防庁長官表彰 永年勤続功労章	副団長	吉田力
	分団長	長木正
	分団長	稲倉隆
	分団長	影谷悟
	分団長	吉田俊夫
	分団長	小西崇雄
	分団長	桑本茂
	分団長	井田秀人
	分団長	岩村茂

表彰等の種類		階級	氏名
日本消防協会会長表彰	功績章	副団長	野口晴久
		分団長	道下和香美
	精績章	分団長	田口俊二
		分団長	桑本茂
	勤続章	分団長	坂田浩一
		分団長	福井秀人
		分団長	井田秀人
		部長	森脇俊介
		部長	伊澤博章
		部長	柄川英彦
		部長	山本和美
		班長	潮健一
		班長	長谷川俊一
		班長	吉岡利治
団員	渡辺晃彦		
鳥取県知事表彰	功労賞	分団長	井田秀人
		分団長	岩村茂
		分団長	田川文男
		分団長	坂田浩一
		副分団長	岩佐訓良
		副分団長	堀尾道明
	功績章	分団長	養藤繁
		分団長	相野幸治
		分団長	石井浩一
		副分団長	河津幹夫
		副分団長	深田誠二
		副分団長	山本忠彦
		部長	金田慎一
		部長	植田省吾
班長	中西実		
班長	宮下孝志		
鳥取県消防協会会長表彰	功績章表彰	副団長	和多瀬泰行
		副分団長	鷺見幸治
		副分団長	加藤春彦
		副分団長	松本利弘
		副分団長	河田幸治
		部長	松下猛
		部長	大谷英範
		部長	島雄和彦
		部長	松田治昭
		部長	瀬尾英信
		部長	八幡明好
		部長	青戸淳一

表彰等の種類		階級	氏名
鳥取県消防協会会長表彰	功労章	団長	杉尾繁樹
		分団長	江原正光
		分団長	中本公平
	勤続賞	部長	松林琢磨
		部長	長谷直樹
		班長	本田卓巳
		班長	木村一彦
		団員	相見康夫
		団員	中村政広
		団員	石田正実

(2) 消防施設関係

ア 消防水利施設整備

火災発生時に迅速・的確な消火活動を行うため、上水道消火栓の増設、補修を行った。

(ア) 上水道消火栓増設

(イ) 上水道消火栓補修

イ 消防団施設等整備

米子市消防団県分団車庫の建替えを行った。

ウ 消防車両等整備

米子市消防団に配備している消防ポンプ自動車のうち、老朽化の著しい車両について、新規購入し更新した。

(ア) 更新車両

米子市消防団春日分団に配備されている車両。

(イ) 規格(型式) CD-1型、A-2級

2 防災関係

(1) 県内統一土砂災害防災訓練

県と連携した土砂災害に係る情報伝達訓練を実施した。

ア 実施日 令和2年6月1日(月)

イ 実施場所 防災安全課

(2) 米子市防災訓練

職員を対象とした避難所開設訓練及び福祉避難所開設訓練を実施した。

ア 実施日 令和2年11月20日(金)

イ 実施場所 湊山体育館、介護老人福祉施設博愛苑

(3) 防災ラジオ事業

ア 防災行政無線放送とコミュニティFMとの連携

防災行政無線の放送(公民館が行う地区放送は除く。)を株式会社DARAZコミュニティ放送が運営するコミュニティFM「DARAZ-FM」を通じて行えるようにシステム整備し、令和3年1月12日午前9時から連携を開始した。これにより、手持ち・市販のラジオでも防災行政無線放送が受信可能な環境が構築された。

イ 自動起動機能付きラジオ放送受信機の調達

(ア) 市・単独事業分として

防災行政無線放送を行った際に自動で電源が入る自動起動機能付きラジオ放送受信機（以下「防災ラジオ放送受信機」という。）を4,000台購入した。

(イ) 消防庁・無償貸与事業分として

消防庁が令和2年度に実施した無償貸与事業により、防災ラジオ放送受信機250台の無償貸与を受けた。

ウ 整備費用

防災行政無線放送とコミュニティFMとの連携及び防災ラジオ放送受信機4,000台の購入費用
51,685,700円

エ 防災ラジオ放送受信機の貸与事業

(ア) 市・単独事業分（4,000台）

自治会（又は自主防災組織）、消防団などに無償貸与するとともに、一般世帯に対する有償貸与（貸貸料2,000円/台）を実施した。なお、一般世帯への有償貸与に当たっては、後期高齢者、重度の障がい者などの要配慮者を優先的貸与者として位置づけ、令和3年2月1日から同年2月19日までの間を優先受付期間として貸与の希望者を募集して実施した。

(イ) 消防庁・無償貸与事業分（250台）

地区社会福祉協議会、在宅福祉員の代表者、経済的に困窮する視覚障がい者（1級・2級）などに対する無償貸与を実施した。

オ 防災ラジオ放送受信機の貸与計画とその状況

〈令和3年3月31日時点〉

区分	貸与先	貸与台数
有償	一般世帯（優先的貸与）	138
	一般世帯（一般貸与）	0
無償	自治会（又は自主防災組織）	414
	消防団	33
	公民館（戸別受信機未設置）	20
	宿直室（淀江支所）	1
	地区社会福祉協議会の代表者	0
	在宅福祉員の地区代表者	0
	経済的に困窮する視覚障がい者（1級・2級）	123
合 計		729

(4) 自主防災組織の育成

地域住民が、それぞれの立場、役割に応じて、隣保共同の精神に基づき自主的な防災活動を行うための自主防災組織の育成に努めた。

令和2年度には新たに13団体が結成され、5団体の解散があり、米子市全体で344組織となった。

ア 令和2年度新規結成組織

名称 三本松二区防災会、三旗町防災会、サンライズ蚊屋防災会、大高大本坊防災会、三本松一区防災会、彦名9区防災会、四日市町防災会、佐陀新町防災会、青木谷防災会、兼久防災会、あすなる防災会、大谷団地防災会、吉岡自治会防災会

(ア) 世帯数 1,021世帯

(イ) 助成額 555,400円

イ 令和2年度自主防災組織育成補助金 交付実績

(7) 交付件数 60件

(イ) 交付合計額 1,589,000円

3 災害関係

(1) 4月13日大雨(4月13日)

米子市災害警戒本部(4月13日)

(2) 6月14日大雨(6月14日)

米子市災害警戒本部(6月14日)

(3) 7月29日大雨(7月29日)

米子市災害警戒本部(7月29日)

(4) 台風第10号(9月6日~9月7日)

米子市災害警戒本部(9月6日~7日)

(5) 9月8日水防警報(中海湖心)大雨(9月8日)

米子市災害警戒本部(9月8日)

(6) 9月11日大雨(9月11日)

米子市災害警戒本部(9月11日)

4 令和2年度7月豪雨に係る支援等

(1) 義援金

本庁舎(総合窓口)、淀江支所地域生活課に義援金箱を設置。(7月20日から12月18日)

日本赤十字社に、義援金合計25,763円を送付。

5 防犯対策関係

(1) 米子市防犯協議会総会

新型コロナウイルス感染症の影響のため、6月22日付書面により開催した。

会 長 高 野 和 男 (米子市自治連合会長)

副 会 長 大 櫃 興 紀 (米子市自治連合会副会長)

〃 田 後 良 文 (米子市社会福祉協議会長)

〃 福 田 知 浩 (米子市学校校外指導連絡協議会長)

(2) 防犯灯設置費等補助金の交付

各自治会防犯灯の設置等について助成を行った。

ア 新設 71基 1,582,176円

イ 光源装置のLED化 277基 2,765,000円

ウ 照明器具の取替 10基 70,000円

エ 移設 4基 67,600円

(3) 防犯灯電灯料補助金の交付

各自治会防犯灯の電灯料について助成を行った。

5,488灯 6,959,013円

6 水難事故防止対策関係

(1) 米子市水難防止協議会総会

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年5月26日付書面により開催した。

会 長 伊 木 隆 司 (米子市長)

副 会 長 高 野 和 男 (米子市自治連合会長)

(2) 広報用チラシ・ポスターの配布

ア 広報用チラシを市内小・中学校、高校、幼稚園、保育園に人数配布した。

イ 広報用ポスターを市内小・中学校、高校、幼稚園、保育園、公民館に掲示した。

7 米子市防災会議

米子市地域防災計画及び広域住民避難計画の修正について審議し、計画を見直した。

(1) 開催日 令和2年7月27日(月)

(2) 開催場所 市役所本庁舎401会議室

8 原子力防災関係

(1) 防災訓練の実施

万が一島根原子力発電所において緊急事態が発生した場合に、住民避難を迅速かつ的確に実施し、住民の生命、身体等を保護する目的で、鳥取県、島根県、島根原発関係市及び関係機関と合同で、原子力発電所事故の通報を受けた後の初動対応訓練及び自家用車を使った住民避難訓練を実施した。

ア 船舶を利用した避難訓練

(ア) 開催日 令和2年8月9日(日)

(イ) 参加者 訓練担当職員1人

イ 初動対応訓練

(ア) 開催日 令和2年10月28日(水)

(イ) 会場 市役所本庁舎第2応接室

ウ 住民避難訓練

(ア) 開催日 令和2年10月31日(土)

(イ) 参加地区 和田地区

(ウ) 参加者 住民約30人

エ 避難先及び避難経路確認訓練

実施なし

(2) 原子力防災講演会の開催

ア 開催日 令和2年9月6日(日)

イ 会場 米子市福祉保健総合センター中会議室

ウ 講師 東京都市大学工学部原子力研究所 客員准教授 岡田 往子 氏

(3) 米子市原子力発電所環境安全対策協議会の開催

島根原子力発電所の安全対策等を把握し、市民の安全及び健康の確保に資するため、各種の団体職員及び公募により選定した団体の構成員などで協議会を開催している。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、資料送付及び書面による質疑応答を行った。

ア 資料送付日 令和3年1月14日(木)